

茨城県知事選挙候補者決定にあたっての声明

2009年7月16日
明るい民主県政をつくる会

「明るい民主県政をつくる会」(略称：明るい会)は本日(7月16日)、今度の茨城県知事選挙に間宮たか子さんを候補者として、必勝を期してたたかうことを決定しました。「明るい会」は、1991年に鈴木武候補でたたかって以来6度目の県知事選挙になります。

候補者発表にあたって、候補者の紹介および県知事選挙にのぞむ「明るい会」の基本的な態度を表明します。

1 候補者選定の経過

(1) 「明るい会」の構成団体である「民主県政の実現をめざす会」(略称；民主県政の会)は、08年1月に開催した第8回総会で今度の県知事選挙に共同の候補者を擁立してたたかうことを決定しました。

「民主県政の会」は、①県民の苦しみや悩みを共有し、要求実現のために先頭にたってたたかえる人、②広範な県民の期待に応えられる人を選定の基準として、候補者選定を行ってきました。また、2名の方の出馬が確実になるもとの、最も対立軸となる人を選定基準に追加し取り組んできました。

8回の選考委員会(会長・谷萩陽一)によって間宮たか子さんを選定し、本人に要請したところ熟慮の末に快諾を得ました。「民主県政の会」は、「民主県政の会」と日本共産党茨城県委員会構成する「明るい会」の役員会にこの経過を報告し、間宮たか子さんを「明るい会」の候補者とすることを決定したものです。

(2) 間宮たか子さんは、前回の県知事選挙で404,323票、得票率27.23%を獲得し、これまで「明るい会」がたたかった選挙での過去最高を築くことができました。間宮たか子さんが再び候補者に決定したことは、寄せられた40万票の重みをしっかりうけとめて、県民のみなさんの期待に応えようとするものです。

また、出馬を表明している2名の方はどちらも中央官僚出身の60代の男性で、雇用と経営、医療・福祉、教育などを後退させ、県民のくらしや地域を破壊してきた自民党政治の流れのなかにいます。間宮たか子さんは50代の普通の女性で、看護師や女性運動の豊かな経験を通じて県民の苦しみや悩みを共有し、“安心と希望の茨城をこいっしょに”を託せる最適な候補者です。

2 間宮たか子さんの紹介

(1) 間宮たか子さんは、1951年生まれの57歳、病院の看護師を経て、女性運動に参加してきました。前述のように前回の県知事選挙では、候補者となって民主県政の実現をめざしました。

現在、新日本婦人の会茨城県本部副会長として、女性運動の指導的役割をにないつつ、県民要求実現茨城共同運動連絡会などの役員も兼ねてくらしや福祉・教育の充実をもとめる運動の先頭に立ってがんばっています。

- (2) 前々回の県知事選挙候補者として奮闘した夫の中田直人さんは、今年2月に他界しました。長男は重度の心身障害をもっており、実の両親も介護が必要であることから、定期的な見舞いが欠かせません。このような事情から「快諾」が遅れましたが、私たちはこのような苦難を抱えた人だからこそ最適な候補者と確信するものです。

3 県知事選挙にのぞむ基本的な態度

- (1) 橋本県政は基本的に国の政治に追随し、むだな大型開発事業をすすめ4期16年間で借金を3.3倍化、1兆7,917億円に拡大、住宅供給公社など運営が破たんした3公社への支援額は約554億円となっており、財政当局に「負担は決して軽いものではない」と認識させるまでに県財政を危機的状況に追いやっています。

その一方で、くらしや医療・福祉、教育など県民の切実な要求にさえ、財政難を理由に答えようとしていません。

今度の選挙は、こうした誤った県政にストップをかける絶好のチャンスです。

- (2) 橋本県政に対する失望と批判はかつてなくひろまり、これまで橋本県政を支えてきた自民党県連は、別の候補者を擁立しています。しかし、県民の批判と失望の根源は自民党政治そのものにあるのであって、自民党に支持され、あるいはこれまで支持された知事では県民の期待に応える県政はできません。

旧官僚の国との太いパイプを断ち切って、県政が「県民の幸せのためにこそ存在する」という地方自治の原点に立ち返ることが大切です。その原点に立って全国8位の財政力を活用するなら、“安心と希望の茨城”の実現は十分可能です。

- (3) 間宮たか子さんは、茨城県で初めての女性候補です。

「明るい会」は、子どもからお年寄りまですべての県民が、元気にくらせる地域づくりに全力をつくします。

働く能力をもったすべての県民が、まともに働き、まともな収入が得られるよう全力をつくします。

むだな大型開発はきっぱりやめて自然環境をまもり、そのことが地域経済をうるおし後世に豊かな自然を継承できるよう全力をつくします。

憲法と地方自治をくらしや行政に活かし、憲法の理想にむかって着実に前進するよう全力をつくします。

以上